

湯浅赳男著「新版 ユダヤ民族経済史—イスラームと西ヨーロッパとの狭間で—」

洋泉社 2008年9月22日刊を読む

イスラーム社会でもまれて商業民族になったユダヤ人は、資本主義の形成に重要な役割を果たした

1. (1) いまユダヤ人はイスラエルに 330 万、アメリカ合衆国に 600 万、ソ連に 270 万、ヨーロッパ諸国に 130 万、その他を合わせて、約 1500 万人が地球上に存在している。

(2) 彼らの生活は専門職や自営業に対する好みなど若干の特徴は残っているけれども、かつてのように流通、金融に限られるようなことはもはやなく、他の民族と隔絶したところはないと言える。
2. (1) その住民の強烈な意志によって独立国家を中東のアラブ世界の一角に打ち込んでいるばかりでなく、最大のコロニーのあるアメリカ合衆国は多民族国家であって、そこではユダヤ人を客人民族とすることは不可能であり、彼らは国民を構成する一要素として居住しているのである。

(2) したがって、ユダヤ人問題は今日においては解決されないまでも、解決の展望は見えてきた、とすることが許されるであろうか。
3. (1) 結論的に言うならば、そのように語ることは全く不可能であるように思われる。

(2) 何故なら、西ヨーロッパ諸国においては、最初に紹介したように反ユダヤ主義は今もなお厳然として存在しているし、その延長と言えるアメリカ合衆国についても、クー・クラックス・クランなどの人種主義的運動がなお存在していることが示しているように、ユダヤ人差別は絶滅したとすることはできない。

(3) のみならず、イスラエル建国はパレスティナのアラブ人を難民化させ、離散させるという皮肉な結果をもたらした。

(4) それはアラブ人の立場よりするならば、絶対に許容することができないことである。
4. (1) パレスティナ問題はどのように解決されるか。ユダヤ人問題はどのように解決されるか。今はまだ予測することはできない。

(2) ただ言えることは、ここまで問題をこじらせ、深刻化させたものは西ヨーロッパ 近代文明であるということである。

(3)一時期、市民社会の論理の徹底化に解決の糸口があるかに見えた時期があった。しかし、市民社会は近代文明の一部であり、この近代文明は歴史的に形成された表層より深層までいく層をも内包する総体なのである。したがって、意識を無意識が裏切ることは当然ありうるということであろう。

5.(1)切札としてのユダヤ人国家の建設はこの近代の論理を捨身のユダヤ人が奪い取った逆襲であったが、それは結局のところ、イスラエルをアラブ世界に打込まれた近代世界の尖兵とすることによって、ユダヤ人の運命をパレスティナのアラブ人に転嫁することにほかならなかった。

(2)それは問題の解決ではなく、むしろ拡大したもので、その底に近代世界の原罪があるという事実を白日のものに明らかにしているのである。

6.(1)西ヨーロッパの内部からだけ説明する従来の西洋史に対して新しい枠組を提起したい。そのため比較文化論、社会学、経済人類学などの観点を使った。

彼らの行動原理、

彼らの職業能力が長いイスラーム世界での経験で身についたこと、

西ヨーロッパ人の反ユダヤ主義はその「恥ずかしい」昔を仲立商人のユダヤ人に見られたことによること、

シオニズムは彼らが実は近代社会の外側に置かれていることを知ったことによること。

P339 ~ 341

[コメント]

ヨーロッパとイスラーム世界を結びつけたのはまさにユダヤ人であり、その隠された歴史を知ることが現代社会を読み解く上で、また将来を展望する上で不可欠と思われる。本書を通してユダヤ人理解を深める契機としたい。

- 2009年8月13日林明夫記 -